

6 すもも（日本すもも・ブルーン）

(1) 防除方法

病害の部

病害虫名及び防除時期	防除方法	参考及び注意事項
黒星病 落花直後～ 6月下旬	<p>[耕種的防除法]</p> <p>1 枝病斑は重要な伝染源になるので、枝ごと切り取って処分する。</p> <p>2 発病葉、発病果は見つけ次第、摘み取って処分する。</p> <p>[薬剤による防除法]</p> <p>トップジンM水和剤(1) 又はオーソサイド水和剤80(M04) 又はナリアWDG(11,7) 又はオーシャイン水和剤(3) 又はオンリーワンフロアブル(3)</p>	<p>1 もも、うめ、あんずにも発生する。</p> <p>2 多雨の条件下で多発する。中でも幼果期は感染が多くなるので、ていねいに薬剤散布を行う。</p> <p>3 収穫時期と農薬使用基準の「収穫前日数」に注意して薬剤を選択する。</p> <p>4 トップジンM水和剤は1,500倍、オーソサイド水和剤80は800倍で使用する。</p> <p>※薬害欄参照 ナリアWDG</p>
灰星病 落花直後 及び6月中旬 ～収穫期	<p>[耕種的防除法]</p> <p>1 被害枝は見つけ次第、剪去して処分する。</p> <p>2 春先にはできるだけ早く園地を乾燥させ、伝染源となる子のう盤（キノコ）の発生を抑制する。</p> <p>3 樹上の発病果は見つけ次第、摘み取って処分する。</p> <p>[薬剤による防除法]</p> <p>ロブラール水和剤(2) 又はナリアWDG(11,7) 又はベルコートフロアブル(M07) 又はパスワード顆粒水和剤(17) 又はアミスター10フロアブル(11) 又はDMI剤(3)</p>	<p>1 おうとう、もも、あんずなど多くの果樹類に発生する。</p> <p>2 多発すると薬剤だけでは防除しきれなくなるので、発病果の処分など耕種的な対策も合わせて行う。</p> <p>3 果実では収穫1か月前頃～収穫前に発生しやすいので、この時期の防除を徹底する。</p> <p>4 ロブラール水和剤とDMI剤は、薬剤耐性の懸念があるので、それぞれ年1回の使用にとどめる。</p> <p>5 ストロビルリン単剤のストロビードライフロアブルとアミスター10フロアブル及び同じ系統の混合剤であるナリアWDGは、薬剤耐性の懸念があるので、合わせて年2回以内の使用とする。ただし、ストロビルリン単剤は連続使用しない。</p> <p>6 収穫時期と農薬使用基準の「収穫前日数」に注意して薬剤を選択する。</p> <p>7 ロブラール水和剤及びパスワード顆粒水和剤は1,500倍で使用する。</p> <p>[DMI剤]</p> <p>インダーフロアブル オーシャイン水和剤 オンリーワンフロアブル サンリット水和剤 トリフミン水和剤 スコア顆粒水和剤 アンビルフロアブル</p> <p>※薬害欄参照 ナリアWDG ベルコートフロアブル パスワード顆粒水和剤 アミスター10フロアブル</p>
黒斑病 開花直前 落花直後～ 6月中旬 収穫後	<p>[耕種的防除法]</p> <p>1 風を強く受ける地帯で多発するので、防風網を設置する。</p> <p>2 春型枝病斑は葉や果実への伝染源になるので、見つけ次第、枝ごと切り取って処分する。夏型枝病斑も重要な伝染源になるので、速やかに処分する。</p> <p>[薬剤による防除法]</p> <p>I C ボルドー412(M01) 抗生物質剤</p> <p>I C ボルドー412(M01)</p>	<p>1 防風網の設置や被害枝、被害果の除去などの耕種的な防除対策を徹底する。</p> <p>2 「開花直前」及び「収穫後」にI C ボルドー412を特別散布する。</p> <p>3 「落花直後」から「6月中旬」までの時期に、抗生物質剤を2～3回散布する。</p> <p>4 収穫時期と農薬使用基準の「収穫前日数」に注意して薬剤を選択する。</p> <p>[抗生物質剤]</p> <p>アグリマイシン-100(41,25) アグレプト水和剤(25) マイシン20水和剤(25) マイコシールド(41) バリダシン液剤5(U18)</p> <p>※薬害欄参照 I C ボルドー412 アグリマイシン-100 アグレプト水和剤 マイシン20水和剤</p>

病害虫名及び防除時期	防除方法	参考及び注意事項
ふくろみ病 発芽前	<p>[耕種的防除法] 発病果は摘み取って処分する。</p> <p>[薬剤による防除法] チウラム水和剤(M03)</p>	<p>[チウラム水和剤] チオノックフロアブル トレノックスフロアブル</p> <p>※薬害欄参照 チウラム水和剤</p>
炭疽病 生育期	<p>[耕種的防除法] 発病果は摘み取って処分する。</p> <p>[薬剤による防除法] ストロビードライフロアブル(11) チウラム水和剤(M03)</p>	<p>1 ストロビルリン単剤のストロビードライフロアブルとアミスター10フロアブル及び同じ系統の混合剤であるナリアWDGは、薬剤耐性の懸念があるので、合わせて年2回以内の使用とする。ただし、ストロビルリン単剤は連続使用しない。</p> <p>[チウラム水和剤] チオノックフロアブル トレノックスフロアブル</p> <p>※薬害欄参照 ストロビードライフロアブル チウラム水和剤</p>

【薬害】

- ナリアWDGは、なしの開花始めから落花20日後頃までの葉及び西洋なしの「ル・レクチェ」の果実に薬害を生じるおそれがある。また、ぶどうの「サニールージュ」の葉に薬害を生じるおそれがある。
- ベルコートフロアブルは、西洋なしの「ル・レクチェ」にさび果を生じる。また、りんごの芽出し2週間すぎから落花後25日頃までは、さび果を生じるおそれがある。おうとうの着色始期から中期に、着色障害が生じるおそれがある。
- パスワード顆粒水和剤は散布によって、「スチューベン」や「バッファロー」、「ポートランド」などのぶどうの一部品種で、軽微な薬害を生じることがある。
- ストレプトマイシンを含む薬剤がぶどうに飛散したことにより、果粒が小粒化した事例がある。
- アミスター10フロアブルは、りんごの「あかね」、「彩香」などの一部の品種に薬害を生じる。
- ICボルドー412は、開花後から8月末までは薬害を生じるおそれがあるので使用しない。また、ICボルドー412とマイトコーネフロアブル、カネマイトフロアブル、スターマイトフロアブル及びダニゲッターフロアブルは14日以内の近接散布をしない。
- ICボルドー412は、ダニサラバフロアブルとの同時使用又は14日以内の近接散布をしない。また、アグリマイシン-100はダニサラバフロアブルと同時使用すると物理性が悪化する。
- ストロビードライフロアブルは、ぶどうの「ロザリオ・ピアンコ」並びにおうとうに薬害を生じる。また、日本なしに、落花30日後頃までの使用で薬害を生じるおそれがある。
- チウラム水和剤は、石灰硫黄合剤と組み合わせない。

害虫の部

病害虫名及び防除時期	防除方法	参考及び注意事項
ウメシロ カイガラムシ 発芽前	[薬剤による防除法] 石灰硫黄合剤(UN) 又はトモノールS 又はスプレーオイル	1 発生が多い樹では、「発芽前」の薬剤散布前にワイヤーブラシ等で越冬成虫を落とす。 2 石灰硫黄合剤は7倍、トモノールS及びスプレーオイルは50倍で使用する。
5月下旬 (幼虫ふ化最盛期)	アブロードフロアブル(16)	
アブラムシ類 落花直後以降 発生に応じて	[薬剤による防除法] サイアノックス水和剤(1B) 又はダイアジノン水和剤34(1B) 又はアディオフロアブル(3A) 又はスカウトフロアブル(3A) 又はモスピラン顆粒水溶剤(4A) 又はジノテフラン水溶剤(4A) 又はダントツ水溶剤(4A)	1 発生状況に応じて防除剤を使用する。 2 いずれの剤も訪花昆虫に悪影響がある。 3 収穫時期と農薬使用基準の「収穫前日数」及び「使用回数」に注意して薬剤を選択する。 4 ダイアジノン水和剤34は1,000倍、スカウトフロアブルは2,000倍、モスピラン顆粒水溶剤は4,000倍で使用する。 [ジノテフラン水溶剤] スタークル顆粒水溶剤 アルバリン顆粒水溶剤 ※薬害欄参照 モスピラン顆粒水溶剤
シンクイムシ類 落花10日後頃	[薬剤による防除法] サイアノックス水和剤(1B)	1 モスピラン顆粒水溶剤は4,000倍で使用する。 ※薬害欄参照
落花20日後頃	ダーズバンDF(1B)	モスピラン顆粒水溶剤
落花30日後頃	ダイアジノン水和剤34(1B)	
落花40日後頃	ダーズバンDF(1B)	
7月上旬	サムコルフロアブル10(28) 又はイカズチWDG(3A)	
7月中旬 (大石早生収穫前)	スカウトフロアブル(3A)	
7月下旬	モスピラン顆粒水溶剤(4A)	
8月上旬 (ソルダム収穫前)	テルスターフロアブル(3A)	
8月中旬	モスピラン顆粒水溶剤(4A)	
8月下旬	デルスターフロアブル(3A)	
9月上旬	スカウトフロアブル(3A)	
ナシヒメコンによる スモモヒメ シンクイの防除	[薬剤による防除法] ナシヒメコン	1 ナシヒメコンを10a当たり100本設置する。目通りの高さに7割、残りを樹の上部に取り付ける。 2 30a以上のまとまった面積で取り付けたら効果的である。 3 園地の周辺部と傾斜がある園地では傾斜の上部に多めに取り付ける。ただし、急傾斜の園地では使用しない。 4 ナシヒメコンはモモシンクイガには効果がないのでシンクイムシ類対策の殺虫剤は必ず使用する。 5 ナシヒメコンは1年ごとに付け替え、剪定時などに回収し、処分する。
ハマキムシ類 開花直前及び 7月上旬 (幼虫発生期)	[薬剤による防除法] バイオマックスDF(11A) 又はファイブスター顆粒水和剤(11A) 又はダイアジノン水和剤34(1B)	1 収穫時期と農薬使用基準の「収穫前日数」に注意して薬剤を選択する。 2 ダイアジノン水和剤34は1,000倍、バイオマックスDFは2,000倍で使用する。
カメムシ類	[耕種の防除法] 1 春先までに越冬場所（作業小屋や落葉の下など）に潜伏している成虫を捕まえて処分する。 2 5月末頃から8月上旬まで断続的に成虫が飛来し、葉に産卵するので、卵塊は見つけ次第、つぶして処分する。 3 ふ化幼虫が見られたら、分散する前に捕まえて処分する。 [薬剤による防除法] ジノテフラン水溶剤(4A) 又はダントツ水溶剤(4A)	1 成虫の飛来状況に応じて、適宜防除する。 2 収穫時期と農薬使用基準の「収穫前日数」及び「使用回数」に注意して薬剤を選択する。 3 ダントツ水溶剤は4,000倍で使用する。 [ジノテフラン水溶剤] スタークル顆粒水溶剤 アルバリン顆粒水溶剤
5月下旬以降 発生に応じて		

病害虫名及び防除時期	防除方法	参考及び注意事項
コスカシバ 休眠期（落葉後～萌芽前） 5月中旬～下旬 （成虫発生前）	<p>[耕種的防除法]</p> <p>生育期には枝幹部や地際部に樹脂（ヤニ）又は虫糞の発生がみられる場合は、削り取って幼虫を捕殺あるいは刺殺する。</p> <p>[薬剤による防除法]</p> <p>ガットキラー乳剤(1B)</p> <p>-----</p> <p>スカシバコンL</p>	<p>1 薬剤の散布や交信攪乱剤（スカシバコンL）の設置、幼虫の刺殺などの総合防除を行う。</p> <p>2 「休眠期（落葉後～萌芽前）」にガットキラー乳剤を枝幹部と地際部に、薬液が十分かかるように手散布する。</p> <p>3 スカシバコンLは30a以上のまとまった面積で取り付けたと効果的である。園地の周縁部には多めに取り付ける。また、傾斜のある園地では、傾斜の上部に多めに取り付ける。</p> <p>4 スカシバコンLは毎年更新する。</p>
ハダニ類 6月中旬以降	<p>[耕種的防除法]</p> <p>不要な徒長枝は早めに切り取って処分する。</p> <p>[薬剤による防除法]</p> <p>サンマイト水和剤(21A) 又はマイトコーネフロアブル(20D) 又はカネマイトフロアブル(20B) 又はダニサラバフロアブル(25A) 又はダニゲッターフロアブル(23) 又はスターマイトフロアブル(25A)</p>	<p>1 発生状況に応じて防除剤を使用する。</p> <p>2 収穫時期と農薬使用基準の「収穫前日数」に注意して薬剤を選択する。</p> <p>3 殺ダニ剤は薬剤抵抗性が出やすいので、同じ系統の薬剤は年1回の使用とする。</p> <p>4 サンマイト水和剤は1,500倍、マイトコーネフロアブル、カネマイトフロアブル及びダニサラバフロアブルは1,000倍で使用する。</p> <p>※薬害欄参照</p> <p>マイトコーネフロアブル カネマイトフロアブル ダニサラバフロアブル ダニゲッターフロアブル スターマイトフロアブル</p>

【薬害】

- 1 モスビラン顆粒水溶剤は、日本なしの「長十郎」、「八雲」等では葉に薬害を生じる。また、ネクタリンでは、品種により葉に薬害を生じるおそれがある。
- 2 マイトコーネフロアブル、カネマイトフロアブル及びダニゲッターフロアブルは、6月以前に使用するとなしに薬害を生じる。また、I Cボルドー412と14日以内の近接散布をしない。
- 3 スターマイトフロアブルは、I Cボルドー412との14日以内の近接散布は効果が劣るので避ける。
- 4 ダニサラバフロアブルは、アグリマイシン-100と同時使用すると物理性が悪化する。また、I Cボルドー412との同時使用又は14日以内の近接散布をしない。

(2) 掲載農薬一覧（すもも（日本すもも・ブルー））

農薬名	F R A C コード	I R A C コード	有効成分	適用病害虫名												
				ふくろみ病	黒星病	灰星病	黒斑病	炭疽病 <small>切り口及び傷口のゆ合促進</small>	ウメシロカイガララムシ	アブラムシ類	シンクイムシ類	ハマキムシ類	コスカシバ	カメムシ類	ハダニ類	
トップジンM水和剤	1		チオファネートメチル		○											
オーソサイド水和剤80	M04		キャプタン		○											
チウラム 水和剤	チオノックフロアブル	M03	チウラム	○				○								
	トレノックスフロアブル	M03	チウラム	○				○								
ストロビードライフロアブル	11		クレソキシムメチル					○								
ナリアWDG	11		ピラクロストロビン													
	7		ボスカリド		○	○										
アミスター10フロアブル	11		アズキシストロビン					○								
ベルコートフロアブル	M07		イミノクタジンアルベシル酸塩					○								
ロブラール水和剤	2		イプロジオン					○								
パスワード顆粒水和剤	17		フェンヘキサミド					○								
DMI 剤	インダーフロアブル	3	フェンブコナゾール					○								
	オーシャイン水和剤	3	オキシボコナゾールフマル酸塩		○	○										
	オンリーワンフロアブル	3	テブコナゾール		○	○										
	サンリット水和剤	3	シメコナゾール					○								
	トリフミン水和剤	3	トリフルミゾール					○								
	スコア顆粒水和剤	3	ジフェノコナゾール					○								
	アンビルフロアブル	3	ヘキサコナゾール					○								
抗 生 物 質 剤	アグリマイシン-100	41	オキシテトラサイクリン					○								
		25	ストレプトマイシン硫酸塩					○								
	アグレプト水和剤	25	ストレプトマイシン硫酸塩					○								
	マイシン20水和剤	25	ストレプトマイシン硫酸塩					○								
	マイコシールド	41	オキシテトラサイクリン					○								
バリダシン液剤5	U18	バリダマイシン					○									
ICボルドー412	M01		塩基性硫酸銅					○								
トップジンMペースト	1		チオファネートメチル					○								
石灰硫黄合剤		UN	石灰硫黄合剤						○							
マシ ン 油	トモノールS		マシン油						○							
	スプレーオイル		マシン油						○							
アブロードフロアブル		16	ブプロフェジン						○							
有 機 リ ン 剤	サイアノックス水和剤		1B	C Y A P						○	○					
	ダイアジノン水和剤34		1B	ダイアジノン						○	○	○				
	ダーズバンDF		1B	クロルピリホス								○				
	ガットキラー乳剤		1B	M E P									○			
ピ レ ス ロ イ ド	アディオフロアブル		3A	ペルメトリン						○						
	イカズチWDG		3A	シペルメトリン								○				
	テルスターフロアブル		3A	ピフェントリン								○				
	スカウトフロアブル		3A	トラロメトリン							○	○				
ネ オ ニ コ チ ノ	スタークル顆粒水溶剤		4A	ジノテフラン						○					○	
	アルバリン顆粒水溶剤		4A	ジノテフラン						○					○	
	ダントツ水溶剤		4A	クロチアニジン						○					○	
	モスピラン顆粒水溶剤		4A	アセタミプリド						○	○					
サムコルフロアブル10		28	クロラントラニリプロール								○					
B T 剤	バイオマックスDF		11A	B T (生菌)									○			
	ファイブスター顆粒水和剤		11A	B T (生菌)									○			

農薬名	FRACコード	IRACコード	有効成分	適用病害虫名												
				ふくろみ病	黒星病	灰星病	黒斑病	炭疽病	切り口及び傷口のゆ合促進	ウメシロカイガラムシ	アブラムシ類	シンクイムシ類	ハマキムシ類	コスカシバ	カメムシ類	ハダニ類
ナシヒメコン			オリフルア									○				
スカシバコンL			シナンセルア											○		
サンマイト水和剤		21A	ピリダベン													○
マイトコーネフロアブル		20D	ビフェナゼート													○
カネマイトフロアブル		20B	アセキノシル													○
ダニサラバフロアブル		25A	シフルメトフェン													○
ダニゲッターフロアブル		23	スピロメシフェン													○
スターマイトフロアブル		25A	シエノピラフェン													○

トップジンM水和剤、オーソサイド水和剤80、サンリット水和剤及びトップジンMペーストは「小粒核果類」、オーシャイン水和剤及びオンリーワンフロアブルは「小粒核果類(うめを除く)」での農薬登録。

石灰硫黄合剤は「落葉果樹」、スタークル顆粒水溶剤、アルバリン顆粒水溶剤、マイトコーネフロアブル、ダニサラバフロアブル、ダニゲッターフロアブル及びスターマイトフロアブルは「小粒核果類」、バイオマックスDFは「果樹類(りんごを除く)」、ファイブスター顆粒水和剤及びスカシバコンLは「果樹類」での農薬登録。

石灰硫黄合剤、トモノールS及びスプレーオイルは「カイガラムシ類」での農薬登録。

アブロードフロアブルのウメシロカイガラムシは「カイガラムシ類幼虫」での農薬登録。

ナシヒメコンのシンクイムシ類は「スモモヒメシンクイ」での農薬登録。